

# 古河電工

## 古河電気工業株式会社

2025年3月期第1四半期決算説明会

2024年8月6日

[登壇者]

1名

取締役兼執行役員 財務本部長

青島 弘治（以下、青島）

## 古河電工グループ 2024年度第1四半期決算

2024年8月6日

古河電気工業株式会社

取締役 兼 執行役員 財務本部長 青島 弘治

© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD.

**青島**：財務本部の青島でございます。本日はお忙しい中、当社の決算説明にご参加いただき誠にありがとうございます。それでは私より、2024年度第1四半期および2024年度通期予想についてご説明いたします。

### ■ 前年比で増収増益、概ね想定通りの進捗

(単位: 億円、円/kg、円/米F丸)	FY23_Q1	FY24_Q1	前年比	
	a	b	b-a	
売上高	2,464	2,736	+271	すべてのセグメントで増収
営業利益	▲ 28	35	+63	サービス・開発等を除くすべてのセグメントで増益
経常利益	▲ 18	71	+89	持分法による投資利益の増加
親会社株主に 帰属する 当期純利益	▲ 17	47	+64	
銅建値 平均	1,219	1,570	+351	
為替 平均	137	156	+18	

5

5 ページをご覧ください。2024 年度第 1 四半期決算のポイントです。

第 1 四半期の実績は、前年比で増収増益となりました。また 5 月に公表しました通期予想に対しては、おおむね想定どおりの進捗です。

売上高は 2,736 億円、営業利益はプラス 35 億円、経常利益はプラス 71 億円、親会社株主に帰属する当期純利益はプラス 47 億円となりました。

売上高は、全てのセグメントで増収、営業利益は、サービス・開発等を除く全てのセグメントで増益、経常利益は営業利益の増加に加え、主に持分法投資利益の増加により増益となりました。

## 24年度Q1実績-要約P/L



### ■ 通期予想は据え置き

《2024/5/13公表》

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)	FY23_Q1	FY24_Q1	前年比	主な増減内訳 (Q1)	FY23	FY24 予想	前年比
	a	b	b-a		c	d	d-c
売上高	2,464	2,736	+271	7ページ参照	10,565	10,800	+235
営業利益	▲ 28	35	+63	8ページ参照	112	250	+138
(率)	▲ 1.1%	1.3%	+2.4		1.1%	2.3%	+1.3
受取/支払利息	▲ 17	▲ 19	▲ 3		▲ 74	-	-
持分法投資損益	10	45	+35		63	-	-
為替損益	12	10	▲ 2		▲ 1	-	-
経常利益	▲ 18	71	+89		103	205	+102
(率)	▲ 0.7%	2.6%	+3.3		1.0%	1.9%	+0.9
特別損益	26	▲ 18	▲ 45	・特別利益：▲40 (48→8)	98	40	▲ 58
法人税等	▲ 24	3	+27	・特別損失：▲5 (▲22→▲27)	▲ 116	-	-
非支配株主に帰属する 当期純利益	▲ 1	▲ 8	▲ 7		▲ 20	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲ 17	47	+64		65	130	+65
(率)	▲ 0.7%	1.7%	+2.4		0.6%	1.2%	+0.6
銅建値 平均	1,219	1,570	+351		1,262	1,155	▲ 107
為替 平均	137	156	+18		145	140	▲ 5

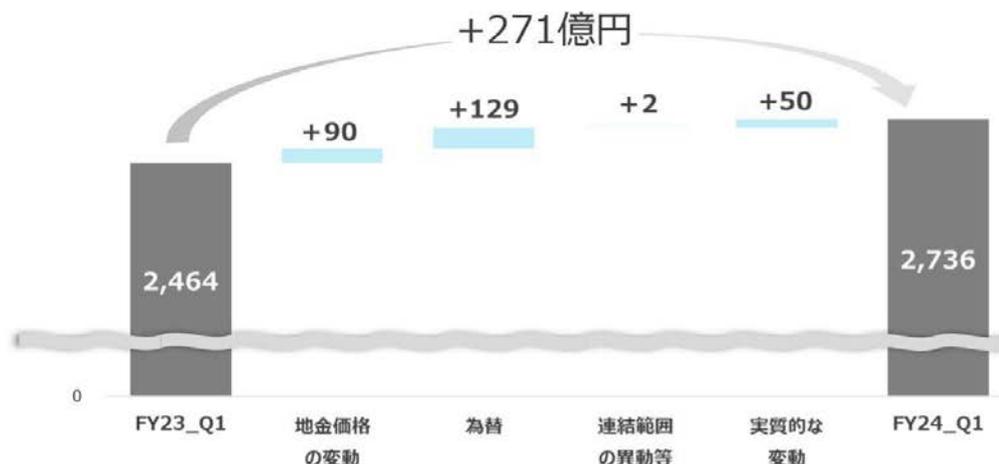
6

6 ページは、要約 P/L です。

通期予想は、5 月公表時の予想を据え置きます。為替レートの前提も 5 月公表時と同じく、1 ドル 140 円の前提です。第 1 四半期の実績について、売上高および営業利益については、次ページ以降の増減要因で説明いたしますが、その他補足説明をいたします。

持分法投資利益が前年比で約 35 億円増加していますが、主に UACJ の持分法投資利益の増加によるものです。特別損益が前年比で約 45 億円減少していますが、前年は政策保有株式の売却が多かったことにより、特別利益が減少しております。また法人税等が、税効果会計による繰延税金資産計上もあり、前年比で約 27 億円減少しております。

(単位：億円)

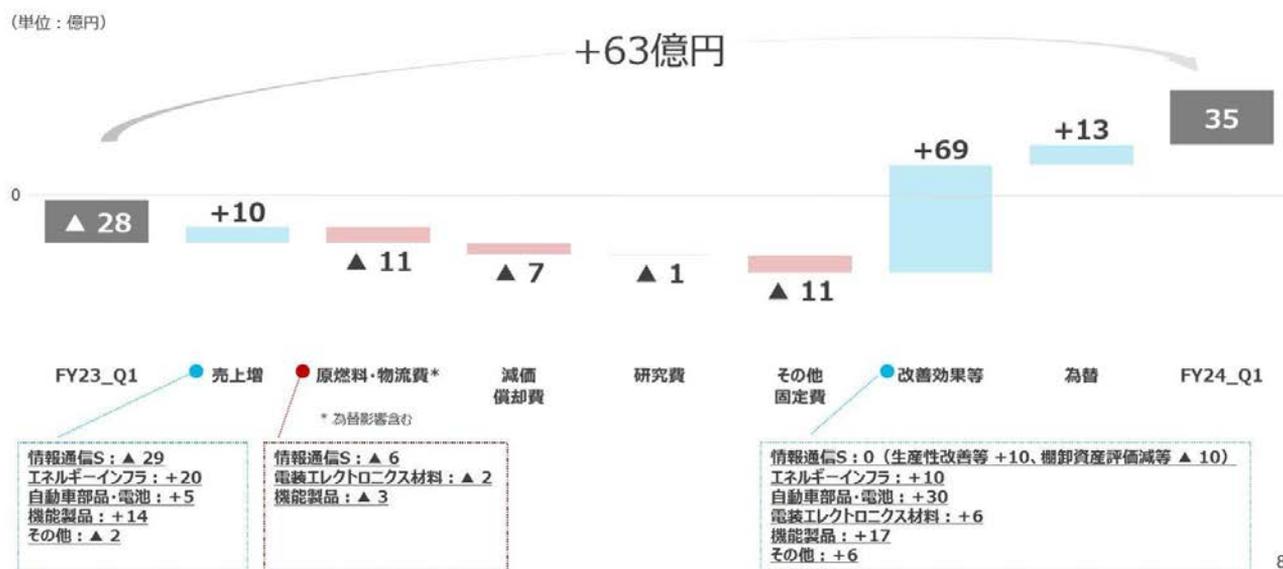


7

7ページは、売上高の増減要因です。

売上高は、前年同期比プラス 271 億円です。地金価格の変動によりプラス 90 億円、円安による為替影響によりプラス 129 億円、連結範囲の異動等を除いた実質的な変動はプラス 50 億円となります。実質的な変動の内訳は、情報通信ソリューションで約 100 億円の減少、エネルギーインフラで約 70 億円増加、自動車部品・電池で約 10 億円増加、機能製品で約 60 億円増加、その他消去等で約 10 億円増加となりました。

## 24年度Q1実績-営業利益の増減要因



8

8 ページは、営業利益の増減要因です。

売上増により 10 億円のプラスです。内訳は、情報通信ソリューションで 29 億円のマイナス、エネルギーインフラで 20 億円のプラス、自動車部品・電池で 5 億円のプラス、機能製品で 14 億円のプラスとなりました。

原燃料・物流費が 11 億円のマイナス、減価償却費は 7 億円のマイナス、その他の固定費は主に人件費高騰により 11 億円のマイナス、為替影響は円安により 13 億円のプラス、価格転嫁、生産性改善、製品ミックス改善など、改善効果の総額は 69 億円のプラスとなりました。

全体の増減要因プラス 63 億円は、ほぼ改善効果等によるものと捉えております。

## 24年度予想-セグメント別 営業利益

### ■ 通期予想は据え置き

### ■ 各セグメントの需要回復や生成AI関連需要の伸びを見極めていく

主なセグメントの営業利益

直前半期比での利益増減イメージ

セグメント	サブセグメント	H1	H2	FY23	H1	H2	FY24	前年比	Q1の進捗
				a	Q1		b	b-a	
インフラ	情報通信ソリューション	▲ 60	▲ 69	▲ 130	▲ 40	▲	▲ 60	+70	想定どおり
	エネルギーインフラ	▲ 26	44	17	11	▲	35	+18	
電装エレクトロニクス	自動車部品・電池	23	133	156	36	▲	165	+9	エレクトロニクス市場の回復遅れにより想定をやや下回る
	電装エレクトロニクス材料	6	25	31	5	▲	45	+14	
機能製品		21	34	55	34	▲	100	+45	生成AI、データセンタ関連需要の好調により想定を上回る
連結合計 (サービス・開発等、消去等を含む)		▲ 46	158	112	35	▲	250	+138	

9

9 ページは、2024 年度通期の営業利益予想の全体感となります。

2024 年度通期の営業利益予想は据え置きます。第 1 四半期の進捗について、まず全体感でお話しますと、5 月の公表時に年間見通し 250 億円の上期下期のレベル感を、上期 3 割、下期 7 割程度とお伝えしました。第 1 四半期は想定した上期のおよそ半分の進捗となり、滑り出しは順調な決算となりました。

サブセグメントごとの第 1 四半期の進捗をご説明します。情報通信ソリューション、エネルギーインフラ、自動車部品・電池セグメントは想定どおり、電装エレクトロニクス材料は、エレクトロニクス市場の回復遅れにより想定をやや下回り、機能製品は、生成 AI、データセンタ関連需要の好調により想定を上回りました。

今後の見通しですが、上期と下期の直前半期比での利益増減イメージを矢印であらわしております。上期の矢印は、2023 年度下期に対する 2024 年度上期イメージです。5 月の公表時に同様のイメージをお示しましたが、現時点で認識する変化点についてご説明いたします。

上期の見通しの中で、電装エレクトロニクス材料は、エレクトロニクス市場の回復が想定を下回っているため、やや下向きに変更、機能製品は、当初想定より強い上向きとなっております。下期の矢印について、全てのセグメントにおいて、下期は上期に対して上向きという認識に変化はございません。

今後、各セグメントの需要回復や生成 AI 関連需要の伸びを見極めてまいります。

## セグメント別 売上高・営業利益



《2024/5/13公表》

(単位: 億円)	売上高			営業利益			売上高			営業利益		
	FY23_Q1	FY24_Q1	前年比	FY23_Q1	FY24_Q1	前年比	FY23	FY24 予想	前年比	FY23	FY24 予想	前年比
	a	b	b-a	c	d	d-c	e	f	f-e	g	h	h-g
インフラ	687	688	+1	▲ 32	▲ 29	+3	2,782	2,900	+118	▲ 113	▲ 25	+88
情報通信ソリューション	468	399	▲ 69	▲ 17	▲ 40	▲ 23	1,680	1,750	+70	▲ 130	▲ 60	+70
エネルギーインフラ	219	289	+70	▲ 15	11	+26	1,102	1,150	+48	17	35	+18
電装エレクトロニクス	1,497	1,672	+175	2	41	+39	6,537	6,500	▲ 37	187	210	+23
自動車部品・電池	882	941	+60	1	36	+35	3,798	3,850	+52	156	165	+9
電装エレクトロニクス材料	615	731	+116	1	5	+4	2,739	2,650	▲ 89	31	45	+14
機能製品	275	359	+84	7	34	+26	1,154	1,350	+196	55	100	+45
サービス・開発等	65	80	+15	▲ 6	▲ 10	▲ 4	316	300	▲ 16	▲ 19	▲ 35	▲ 16
連結消去	▲ 59	▲ 63	▲ 4	1	▲ 1	▲ 2	▲ 224	▲ 250	▲ 26	1	0	▲ 1
連結合計	2,464	2,736	+271	▲ 28	35	+63	10,565	10,800	+235	112	250	+138

10

10 ページは、セグメント別売上高・営業利益でございます。

サブセグメントの状況については、次ページ以降で説明しますので、説明は割愛いたします。

FY24\_Q1

減収減益

(単位：億円)

	FY23_Q1	FY24_Q1	前年比
	a	b	b-a
売上高	468	399	▲ 69
営業利益	▲ 17	▲ 40	▲ 23

【増減益要因】

- (-) テレコム関連の需要減
- (+) データセンタ関連は受注増

事業環境の認識			
>>	FY24_H1	FY24_H2	>>
ファイバ・ケーブル	需要回復基調	顧客の在庫調整の解消 BEAD*1プログラム等によるケーブル需要増	
光デバイス/ 国内NW 関連製品		データセンタ市場向け需要増	
		下期偏重	
注カポイント			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汎用品から高付加価値製品・ソリューションへのシフト</li> <li>・ データセンタ・FTTx*2市場での新規顧客開拓と製販体制強化</li> </ul>			
ローラブルリボンケーブル	ネットワークシステム	ITLA *3・DFB*4	
<small>*1 Broadband Equity Access and Deployment Program *2 Fiber To The x (光ファイバを用いる通信サービス網の総称) *3 Integrated Tunable Laser Assembly (回路付可変長可変光源) *4 Distributed Feedback Laser (分布帰還型レーザー)</small>			

11

11 ページは、情報通信ソリューションです。

第 1 四半期の実績は、前年同期比で減収減益です。2023 年度期初から続く北米需要の減速は、2023 年度第 3 四半期に底を打ったものの、2024 年度第 1 四半期は、引き続きテレコム関連の需要が低迷。データセンタ関連の受注の成果が出てきておりますが、まだ全体の需要減をカバーするには至らず減益となりました。

事業環境の認識はこちらにお示しておりますが、5 月公表時から大きな変化点はございません。

FY24\_Q1

増収増益

(単位：億円)

	FY23_Q1	FY24_Q1	前年比
	a	b	b-a
売上高	219	289	+70
営業利益	▲ 15	11	+26

【増減益要因】

(+) 国内超高压・再エネ関連・機能線の  
売上増等

事業環境の認識		
>>	FY24_H1	FY24_H2 >>
国内超高压	国内更新・再エネ関連需要/工事案件は下期集中	
海底線		
中国国内	需要回復は緩やか	
機能線/部品	堅調な需要	
注カポイント		
<ul style="list-style-type: none"> <li>利益重視の受注と販売価格の適正化</li> <li>ケーブル製造および工事施工能力の増強</li> <li>マーケティング活動の推進による拡販</li> </ul>		
国内超高压・海底線	再エネ関連	
らくらくアルミケーブル®	送配電部品	

12

12 ページは、エネルギーインフラです。

第 1 四半期の実績は、前年同期比で増収増益です。国内超高压・再エネ関連・機能線の売上増等が増益要因です。

事業環境の認識も、5 月公表時から大きな変化はございません。

FY24\_Q1

増収増益

(単位: 億円)

	FY23_Q1	FY24_Q1	前年比
	a	b	b-a
売上高	882	941	+60
営業利益	1	36	+35

【増減益要因】

- (+) 安定した受注による生産性の改善
- (+) 売上数量は微増

事業環境の認識				
	>>	FY24_H1	FY24_H2	>>
自動車部品	顧客生産計画は概ね安定 自動車生産台数は微増 アルミハーネス搭載車種の増加			
電池	車載、産業用ともに売上は下期集中			
注カポイント				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電動車市場に向けた製品開発、自動化</li> </ul>			
	<div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; display: inline-block;">アルミワイヤハーネス・高電圧対応品</div>			

13

13 ページは、自動車部品・電池です。

第 1 四半期の実績は、前年同期比で増収増益です。主要な顧客の日系 OEM の生産が安定し、当社の生産性が改善したことが増益要因です。

事業環境の認識も、5 月公表時から変化はございません。

**FY24\_Q1**

**増収増益**

(単位: 億円)	FY23_Q1	FY24_Q1	前年比
	a	b	b-a
売上高	615	731	+116*
営業利益	1	5	+4

\*銅価・為替変動の影響を含む

(参考)  
 銅建値平均 円/kg  
 為替平均 円/米ドル

FY23_Q1	FY24_Q1
1,219	1,570
137	156

【増減益要因】

(+) 製品ミックス等の改善

**事業環境の認識**

>> FY24\_H1 FY24\_H2 >>

車載関連需要は堅調

エレクトロニクス関連需要の回復

---

**注カポイント**

- 高付加価値製品の拡充と拡販
 

耐熱無酸素銅条 (パワー半導体・放熱部品用)	リボン線・極細平角線 (5G通信インフラ用)	高機能製品 (抵抗材等)
---------------------------	---------------------------	-----------------
- 販売価格の適正化と低採算品種の撤退

14

14 ページは、電装エレクトロニクス材料です。

第 1 四半期の実績は、前年同期比で増収増益です。売上高が前年比で大きく増加しておりますが、主に銅価高騰、円安影響ですので、実質的にはほぼ前年と同レベルとなります。

増益要因は、主に製品ミックスの改善によるものです。

事業環境の認識は、エレクトロニクス関連需要の回復は下期以降ということに変化はありませんが、やや回復遅れも見られることから引き続き注視してまいります。

**FY24\_Q1**

増収増益

(単位：億円)

	FY23_Q1	FY24_Q1	前年比
	a	b	b-a
売上高	275	359	+84
営業利益	7	34	+26

【増減益要因】

(+) 生成AI・HDD関連製品の売上増

事業環境の認識			
>>	FY24_H1	FY24_H2	>>
スマートフォン・パソコン関連製品需要の緩やかな回復			
HDD関連のサプライチェーン上の在庫調整は想定より早い解消			
生成AI関連投資の活況継続			
注カポイント			
<ul style="list-style-type: none"> <li>データセンタや再エネ関連市場向け高付加価値製品の拡販継続  <small>半導体製造用テープ</small> <small>高機能放熱・冷却製品</small> <small>HDD用薄型アルミブランク材</small> <small>高周波基板用銅箔</small></li> <li>生成AIや半導体関連製品等の需要増に対応する生産体制の整備</li> </ul>			

15

15 ページは、機能製品です。

第 1 四半期の実績は、前年同期比で増収増益です。生成 AI 関連製品の需要は旺盛で、サーマル製品やハードディスク用アルミブランク材の売上が増加したことにより、増益となりました。

事業環境の認識ですが、昨年から続く生成 AI 関連投資は活況が継続しており、生成 AI に牽引される形でデータセンタ関連の需要も活発となり、ハードディスク用アルミブランク材は、想定よりも早くサプライチェーン上の在庫調整が解消しております。

## 24年度Q1実績-要約B/S

(単位: 億円)	FY23末 <sup>a</sup>	FY24_Q1末	増減
	a	b	b-a
<b>流動資産</b>	<b>5,178</b>	<b>5,327</b>	<b>+149</b>
現金及び預金	489	435	▲ 54
受取手形、売掛金及び契約資産	2,457	2,481	+24
棚卸資産計	1,836	2,002	+166
<b>固定資産</b>	<b>4,672</b>	<b>4,402</b>	<b>▲ 270</b>
有形固定資産	2,786	2,817	+31
無形固定資産	203	199	▲ 4
投資その他の資産	1,683	1,386	▲ 297
<b>資産合計</b>	<b>9,850</b>	<b>9,729</b>	<b>▲ 121</b>
<b>流動負債</b>	<b>4,009</b>	<b>4,173</b>	<b>+164</b>
<b>固定負債</b>	<b>2,259</b>	<b>2,159</b>	<b>▲ 99</b>
<b>負債合計</b>	<b>6,268</b>	<b>6,332</b>	<b>+65</b>
<b>株主資本</b>	<b>2,849</b>	<b>2,606</b>	<b>▲ 243</b>
その他の包括利益累計額	434	484	+50
非支配株主持分	299	306	+7
<b>純資産合計</b>	<b>3,582</b>	<b>3,396</b>	<b>▲ 186</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>9,850</b>	<b>9,729</b>	<b>▲ 121</b>
自己資本比率	33.3%	31.8%	▲ 1.5
NET有利子負債	2,841	2,877	+35
NET D/Eレシオ	0.87	0.93	+0.06

\*「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等」の変更に伴いFY23実績値をリステイト(Appendix参照)

**棚卸資産 166億円 増加**  
(為替・銅価の影響: +68億円を含む)  
将来売上計上予定のプロジェクト・工事案件等 (FY23末比 43億円増加)

**有形・無形固定資産 27億円 増加**  
設備投資・減価償却費の影響: ▲ 22億円  
為替影響: +52億円  
除売却等: ▲ 3億円

**投資その他の資産 297億円 減少**  
投資有価証券: ▲ 303億円  
※主にUACJ株式保有区分の変更(関連会社株式 → 一般株式)

**資産合計 121億円 減少**  
連結範囲等の変動の影響: ▲ 305億円 ※主にUACJ  
為替影響: +156億円

**株主資本 243億円 減少**  
利益剰余金: ▲ 243億円 ※主にUACJ株式売却

**その他包括利益 50億円 増加**  
その他有価証券評価差額金: +110億円 ※主にUACJ株式時価評価益  
為替換算調整勘定: ▲ 56億円

16

16 ページは、要約 B/S です。

総資産は 9,729 億円、前年度末より 121 億円減少しました。円安による為替影響により、資産全体で 156 億円の増加。一方、投資その他の資産において、UACJ 株式が持分法適用会社から一般株式に保有区分が変更になり、その影響で約 300 億円の減少となりました。

また、純資産の株主資本についても、主に UACJ 株式の保有区分変更により 243 億円減少し、純資産合計で 186 億円の減少となりました。自己資本比率や NET D/E レシオの指標が悪化しておりますが、これは UACJ 株式の保有区分変更の影響による特殊要因によるものです。

## ■ 通期予想は据え置き

《2024/5/13公表》

(単位：億円)	FY23_Q1	FY24_Q1	前年比	FY23	FY24 予想	前年比
	a	b	b-a		c	d
設備投資額	85	69	▲ 16	390	480	+90
減価償却費	95	101	+7	390	410	+20
研究開発費	64	64	+1	245	260	+15

17

17 ページは、設備投資額・減価償却費・研究開発費です。

設備投資額・減価償却費・研究開発費についても、5月に公表した数値から変更はございません。設備投資額は、前年比約 16 億円減少しておりますが、前年第 1 四半期に大口案件の検収があったことが今年度減少の主要因となります。

減価償却費は、前年比 7 億円増加しておりますが、主に為替影響によるものです。

研究開発費は、前年と同水準となります。

## 事業ポートフォリオ最適化の取組み

グループ横断的な組織再編の概要	完了時期	主な目的
光ファイバ・ケーブル事業のグローバル持株会社設立* *傘下の事業会社： 新設法人(日本)・OFS(米国)・FEL(ブラジル)	2025年4月	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">収益改善</div> <div style="background-color: #6495ed; padding: 2px;">成長戦略</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>各地域の事業特性や強みを活かした事業運営の効率化とシナジーの深化、グローバル事業機会の獲得</li> </ul>
メタル電線事業の古河電工産業電線(株)への統合* *統合の対象： 当社・理研電線(株)・阿野電線(株)の一部、(株)KANZACC	2025年10月	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">事業ポートフォリオ転換</div> <div style="background-color: #f08080; padding: 2px;">収益改善</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業運営の効率化</li> <li>市場競争力ある製品群への特化</li> </ul>
古河電池(株)の株式譲渡とパートナー企業を通じた蓄電池事業への再出資	2025年4月 (見込み)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">事業ポートフォリオ転換</div> <div style="background-color: #90ee90; padding: 2px;">コーポレートガバナンス</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベストオーナーによる古河電池(株)の成長発展</li> <li>親子上場の解消</li> </ul>

18

最後に、事業ポートフォリオ最適化の取組みです。

詳細の説明はいたしません、最近発表した再編関連の概要についてこちらにまとめております。いずれも2024年度決算に影響するものではありませんが、今後もビジョン2030や25中計の達成に向けて、資本効率向上の取組みを進めてまいります。

私からの説明は以上となります。